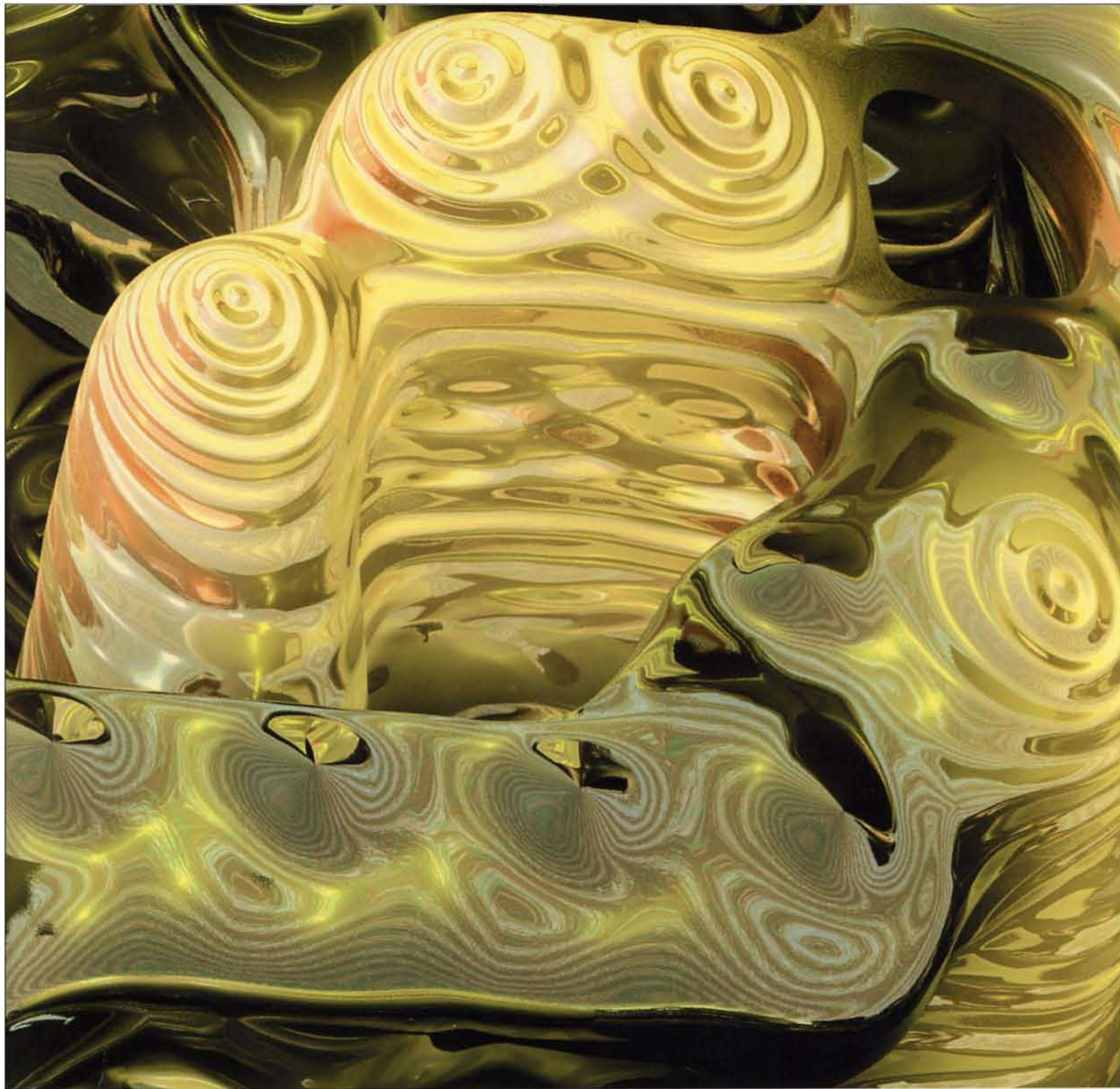




映像工夫館展 テーマⅢ
3D@スペクタクル2000
 Images and Technology Gallery Exhibition Theme III
3D@spectacle.2000

2000年4月18日(火)→2001年3月29日(木)
 主催＝東京都／東京都写真美術館

開館時間＝10:00→18:00(木・金曜日は20:00まで)入館は閉館の30分前まで◇休館日＝毎週月曜日(休館日が祝日の場合は翌日)◇観覧料＝一般500(400)円／小・中・高校生250(200)円◇()内は20名以上の団体料金◇同時開催の収蔵展を含む◇小学生未満、65歳以上、お体に障害をお持ちの方とその介護者1名は無料(証明できるものをご提示ください)◇本展最終パート(2月17日→)は、文化庁メディア芸術祭との連動企画です。メディア芸術祭企画展の会期中(3月13・14日)に限り、同展チケット(1000円)で東京都写真美術館の展示がご覧になれます。(映画上映・LIVE@CHARAMIX.comを除く)



東京都写真美術館
 Tokyo Metropolitan Museum of Photography
 恵比寿ガーデンプレイス内 tel.03-3280-0099
 URL＝http://www.tokyo-photo-museum.or.jp

テーマⅢ **3D@スペクタクル 2000**
 Theme III **3D@spectacle.2000**

前期[奥行き]＝2000年4月18日(火)→11月5日(日) 後期[拡がり]＝11月10日(金)→2001年3月29日(木)
 主催＝東京都／東京都写真美術館

映像工夫館(映像展示室)では、「イメージという魔術」や「アニメーションズー過去から未来へ」に続き、映像分野を探る5つの切り口のうちの、第3のテーマ『立体視』のシリーズ「3D@スペクタクル2000」を一年間開催しています。当館では93-96年の二度にわたり、視覚の奥行きや拡がりを考える3D展示・ワークショップを展開してきました。今回は、過去の大きな3Dブームを超えてさらに多様化する映像分野と、バーチャルリアリティ(VR・人工現実感)を含め、拡張する知覚のスペクタクルに焦点をあてます。

前期「奥行き」では、ステレオ写真考案より以前に遡る(奥行き知覚)を多数紹介しています。ピー

ブ・ショー(エンゲルブレイト劇場＝のぞきからくり)、美しい木製細工のステレオビューワーやステレオカメラ、名所旧跡・世界旅行・戦争記録のステレオカード、奥行き知覚に関する可憐な玩具、赤青アナグリフ方式、3D映画ポスターなどが展示されています。専用の3Dビューワーで(日露戦争)や(万国実体写真)の世界旅行を楽しみ、貴重なダゲレオタイプの3D写真(ロンドン万国博覧会)も期間限定で公開しました。

後期「拡がり」では、壮大な空間表現の一例として(パノラマ)に焦点をあて、ヨーロッパのパノラマ館や明治期の見世物(日清戦争・戦闘図、幕末の江戸や、原爆投下後の広島をとらえたフェリッ

クス・ベアトや林重男によるパノラマ写真を紹介しています。

一方、イギリスの現代作家フィル・マクナリーによる《Captain 3D's Space Station》は、赤青メガネで大スクリーンを見ながらマウスで画面をどんどん消していき、いくつもの層が重なる空間を楽しみつつ、コラージュや時間の経緯を体験する不思議な3D作品です。これらの歴史的装置や現代作品を通して、ステレオ写真だけでなく3D分野の拡がりを知り、さらに拡張していく3D表現の可能性を体感してみましょう。

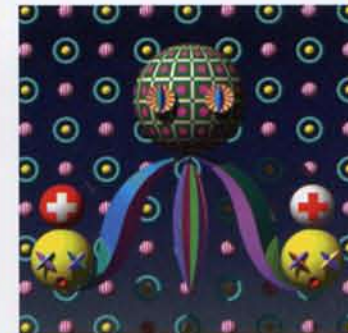
展覧会解説＝森山朋絵(東京都写真美術館学芸員)



林重男(相生橋東詰北側の広島商工会議所屋上から広島市内を見渡す(360°のパノラマ)) 1945年



作家不詳(日清戦争・戦闘図パノラマ) 明治年間



小田英之(Taco-Globe) 1991年

テーマ展 [特集] **ホログラフィック・イメージ展**

Holographic Image

2000年6月27日(火)→8月13日(日)
 協力＝ガボール生誕100周年記念行事企画実行委員会／ホログラフィック・ディスプレイ研究会
 出品作家＝石井勢津子／三田村駿右／酒井朋子／岸本康／中村郁夫／山口忠彦／マーガレット・ベニヨン／ルディー・バーコウト／バトリック・ボイド

2000年6月5日は、立体映像を二次元上に記録する「ホログラフィー」原理の発明者デニス・ガボール博士の生誕100周年にあたります。前期の特集では、ホログラムを初めてアート作品に用いたマーガレット・ベニヨンら国内外のすぐれた表現を紹介し、技術の源を理解するシンポジウム、夏休みのホログラフィー制作ワークショップを開催しました。

[関連事業]

◆デニス・ガボール生誕100周年記念シンポジウム「ホログラフィー その発明から新世紀の映像メディアへ」◇日時＝7月20日(木・祝)◇会場＝東京都写真美術館1Fホール◇講師＝三田村駿右／辻内順平／石井勢津子／久保田敏弘◇司会＝山口雅浩



石井勢津子・三田村駿右作品 展示風景 2000年



リー・フリードランダー
 (ニューヨーク市) 1974年

作品展 [1] **3D@フォーカス 2000**

Special Exhibition1 3D@focus.2000

2000年8月18日(金)→11月5日(日)
 協力＝株式会社ボイジャー／財団法人2005年日本万国博覧会協会／IAMAS(国際情報科学芸術アカデミー)
 出品作家＝リー・フリードランダー／ゲリー・ウィングランド／アンリ・カルティエ・ブレッソン／ピーター・ヘンリー・エマーソン／荒木経惟／奈良原一高／木村伊兵衛／福原路草／植田正治／黒川翠山

作品展[1]は、フォーカス(＝奥行きと焦点)の特集です。リー・フリードランダー作品に見られる、すべての空間にピントを合わせる(パン・フォーカス)や、福原路草が試みたように、ある対象にピントを集中させる言わば(ポイント・フォーカス)を駆使した写真作品を紹介します。また、奥行き知覚への探究が続く中、過去の時代ごとに先鋭的な3Dテクノロジー発表の舞台となったのは、世界各地で開催された万国博覧会でした。日本でも、新世紀を迎えて新たに開催される万国博覧会のために、映像メディアのスペクタクルとも言え

るアーカイブ(万国博覧会150年を鳥瞰する市民レベルの映像学習システム)が構築されています。さらに、インタラクティブ・アートの分野でも、焦点や被写界深度をテーマとするすぐれた映像表現があります。ハンガリーのタマシュ・ヴァリツキによる(フォーカスII)は、作家自身とある人間関係を構築する人々が画面に溢れ、家族、友人、仕事仲間といった、極めてパーソナルなグループに同時にピントが合うようになっています。画面のあちこちに自由にポインターを走らせ、絞りやクローズアップを試み、私たちは作家の静謐な想いそのものに触れます。

[関連事業]

◆国立民族学博物館特別展「進化する映像ー影絵からマルチメディアへの民族学」◇日時＝7月20日(木・祝)→11月21日(火)◇主催＝国立民族学博物館／読売新聞大阪本社／東京都写真美術館◇映画前史の収蔵品約150点が、映像メディア史を総覧する特別企画展で、館外では初めて公開されました。会場の3Dウォークスルー映像も、ウェブ上で公開予定です◇http://www.minpaku.ac.jp